

交通バリアフリー推進ネットワークメールマガジン登録団体 各位

交通バリアフリー推進ネットワークメールマガジンをお送りしますので、ご覧ください。

なお、配信方法をE-mailに転換していきたいと思っておりますので、info@ecomoo.or.jpまでお知らせ頂ければと思います。

また、配信の停止等に関しても、info@ecomoo.or.jpもしくはFAX(03-3221-6674)までお知らせ頂ければと思います。

交通バリアフリー推進ネットワークメールマガジン VOL. 71

2008年11月4日

>>>>

目次

>>>>

▼「エコモ」からのお知らせ

■らくらくおでかけネット

■高齢者・障害者等の公共交通機関不便さデータベース

■バリアフリー学習図鑑「みんなで考えるバリアフリー」の公開

■小中学生の総合学習、修学旅行等の受け入れのご案内

▼「行政」からのお知らせ

■【国土交通省】交通バリアフリー法、バリアフリー新法移動円滑化基本構想策定状況(平成20年9月まで)

■【国土交通省】バリアフリー新法に基づくバリアフリー化の進捗状況について(2008/10/3)

■【厚生労働省】障害者雇用底上げをテーマとした「ATARIMAE(あたりまえ)プロジェクト」が始まります(2008/10/15)

■【国土交通省】第1回国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰について(2008/10/16)

▼ニュース

▼各種催し物のお知らせ

▼コラム

▼その他

▼エコモからのお知らせ

■らくらくおでかけネット

現在は、鉄道駅4,072駅、空港85、バス158、旅客船411ターミナルの情報を提供しています。最近の1日のアクセス件数は、約3,000件です。

リンクご希望の方はご連絡ください。

(パソコン版)<http://www.ecomoo-rakuraku.jp/rakuraku/index/> (携帯版)<http://www.ecomoo-rakuraku.jp/rakuraku/mobile/>

■高齢者・障害者等の公共交通機関不便さデータベース

平成5年10月から平成18年3月までに各関係機関で実施された、障害者や高齢者等の駅、公共交通機関の利用状況についてまとめた調査報告書の内容を整理し、駅や交通機関(鉄道・バス)の利用者が実際に感じている不便さや利便さ等の意見を抽出し、データベース化いたしました。

詳細はこちらから→ http://www.ecomoo.or.jp/barrier_free/fubensa/index.html

■バリアフリー学習図鑑「みんなで考えるバリアフリー」の公開

「みんなで考える交通バリアフリー」は、遊びながら交通バリアフリーの基礎知識について学ぶことができるように作られています。また、音声読み上げソフトにも対応していますので、音声だけでも学ぶことができます。学校の教材として、個人の学習資料としてご活用ください。

詳細はこちらから→ http://www.ecomoo.or.jp/barrierfree/minnabf/minnabf_top.html

■小中学生の総合学習、修学旅行等の受け入れのご案内

当財団では、小中学生の皆さんの総合学習や修学旅行の受け入れを行っています。講習内容は、「バリアフリーやユニバーサルデザインの歴史」、「バリアフリー新法について」、「バリアフリーの現状」などです。また、車いす体験や高齢者疑似体験等、ご希望に沿った内容で実施しています。詳細につきましては、お問い合わせください。

詳細は→ http://www.ecomoo.or.jp/barrierfree/excursion/excursion_top.html

▼行政からのお知らせ

- 【国土交通省】交通バリアフリー法、バリアフリー新法移動円滑化基本構想策定状況（平成20年9月まで）
基本構想を作成済みの市区町村 251 市町村(321 基本構想)
※5000人以上の旅客施設が所在しない市町村の基本構想も件数に含む。
詳細は→ <http://www.mlit.go.jp/barrierfree/transport-bf/basicplan/jurijokuyou2009.pdf>
- 【国土交通省】バリアフリー新法に基づくバリアフリー化の進捗状況について（2008/10/3）
高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律(以下「バリアフリー新法」という。)第53条に基づく公共交通事業者等からの移動等円滑化実績等報告(平成19年度末における公共交通機関のバリアフリー化の状況)が公表されました。
詳細は→ http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo09_hh_000004.html
- 【厚生労働省】障害者雇用底上げをテーマとした「ATARIMAE（あたりまえ）プロジェクト」が始まります（2008/10/15）
本プロジェクトでは、障害者が社会で働くことが当たり前であるという社会を実現するため、これに必要な情報を、企業、障害者、福祉・教育関係者に積極的に提供するほか、広く国民が障害者雇用の促進について理解と関心を持つきっかけとなるよう、インターネットを中心とした広報活動等を展開します。
詳細は→ <http://www.mhlw.go.jp/houdou/2008/10/h1015-3.html>
- 【国土交通省】第1回国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰について（2008/10/16）
本年3月に大臣表彰を受賞した以下の5件について、選考委員の講評と概要が公開されました。
 - さいたま新都心バリアフリーまちづくりボランティア
 - 特定非営利活動法人 伊勢志摩バリアフリーツアーセンター
 - 豊中市 ～チェックシステム等による当事者参画スパイラルアップ～
 - 廿日市市 ～広島電鉄平良駅等のバリアフリー改良～
 - 宮崎市 ～民間建築物のバリアフリー促進～詳細は→ http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/barrierfree/sosei_barrierfree_tk_000002.html

▼ニュース

（業界紙面より）

□エレベーター2駅で増設（交通新聞9/30付）

JR東日本仙台支社は10月1日、東北新幹線・陸羽東線古川駅、奥羽線天童駅の増設エレベーターの使用を開始する。（中略）古川駅は△1階北側改札外コンコース～2階改札外コンコース間△2階改札内コンコース～陸羽東線ホーム（地平）間△同～3階東北新幹線上りホーム間の3カ所。改札内コンコース～新幹線下りホーム間は既設。天童駅は2階改札内コンコース～2・3番線ホーム間。1番線ホームは既設。

（参考）

古川駅 駅案内図(JR東日本HPより) <http://www.jreast.co.jp/estation/stations/1388.html>

天童駅 駅情報(JR東日本HPより) <http://www.jreast.co.jp/estation/station/info.aspx?StationCd=1032>

□世界へ日本文化発信 JR東海（交通新聞10/1付）

JR東海とジェイアール東海エージェンシーの両社は10月1日から、パソコンや携帯情報端末にダウンロードして楽しめる無料配信サービスの提供サイト「NipponArchives(=ニッポンアーカイブス)」を開設する。第1弾の配信番組は、現在、展開中の奈良キャンペーンに合わせた「万葉集ココロ・ニ・マド・ヲ」(略)

（参考）<http://www.manyoshu.jp/contents/001-02-0165/>

□外国人用災害カード 高知（交通新聞10/2付）

南海地震などの際に在日外国人が助けを求められるように、高知県国際交流協会は被災時に役立つ文例などを記載した携帯カードを作成した。英語、中国語、韓国語、インドネシア語4種類。「避難所に連れて行って」などの文例を日本語併記で紹介。希望者に無料配布している。問い合わせは同協会。

□桜上水駅の橋上化完成 京王電鉄（交通新聞 10/9 付）

京王電鉄が整備を進めていた京王線桜上水駅の橋上駅舎化がこのほど完成し、駅の南北自由通路の使用を開始、改札外と改札内のバリアフリー施設の設備の整備も完了した。（中略）

桜上水駅の南北自由通路の整備で京王線では調布-新宿間のすべての駅で自由通路が整備されたことになり、駅周辺地域の分断が解消された。

□山形新幹線の新型車両公開 12月から投入 JR東日本（交通新聞 10/16 付）

JR東日本は14日、宮城県利府町の新幹線総合車両センターで、12月から山形新幹線「つばさ」に投入予定のE3系2000代新幹線電車を報道公開した。同電車は7両編成で、東京方の11号車がグリーン車、そのほかの車両が普通車。自由席の16、17号車のシートピッチは従来より70ミリ広げて、指定席車両と同じ980ミリとした。「人にやさしい」「情報環境を向上した」「より安してご乗車いただける」車両、「山形をイメージしたデザイン」が特徴で、「人にやさしい」では全車両に動揺防止制御装置（アクティブサスペンション）、車内に空気清浄機を装備。座席はグリーン車にレッグレスト、普通車に足のせ台を設けた。バリアフリーに配慮し、電動車いすで利用可能なトイレを設置。（略）

□京阪中之島線が開業 大阪都心部を東西に結ぶ（交通新聞 10/21 付）

大阪の都心部の地下を東西に結ぶ新線、中之島線（天満橋～中之島、3キロ）が19日開業した。同線は、大阪府、大阪市、京阪電気鉄道などが出資する第3セクターの中之島高速鉄道が施設を建設、保有し、京阪が列車を運行する償還型上下分離方式で運営。京阪線と直通運転を実施する。2003年（平成15年）5月着工。総事業費約1500億円。（略）

□JR西日本 新駅「桂川」が開業 京都線西大路-向日町間に（交通新聞 10/21 付）

JR西日本は18日、JR京都線（東海道線）西大路-向日町間に設けた新駅「桂川」（かつらがわ）を開業した。同社の新駅は、今年3月開業した同線島本駅などに続き、発足以来69駅目。（中略）ホームは島式1面2線（12両対応）。エレベーター、エスカレーター各1基設置。快速と普通列車が約280本停車し、1日約4200人の乗車人員を見込む。所要時分は京都まで約6分、大阪まで約35分。併せて、京都市が駅東西を結ぶ自由通路を整備した。総工費約19億円。（略）

□視力弱い人も見やすく ガイドブック JAL ホテルズが作製（交通新聞 10/21 付）

日本航空グループのホテル運営会社・JAL ホテルズは、視力の弱い人も鮮明に見えるよう配色に工夫した、カラーユニバーサルデザインを取り入れた無料のホテルガイドブックを業界各社に先駆けて作製した。（略）

□公共交通とまちづくり 福井で路面電車サミット（交通新聞 10/21 付）

“ひと・まち・環境をつなぐLRT”をテーマにした9回目の「全国路面電車サミット2008福井大会」が17日から3日間、福井市内で約500人が出席して開かれた。行政、鉄軌道事業者、NPO法人、愛好家、一般市民などが一堂に会し公共交通とまちづくりを考える全国大会で、主催団体の全国路面軌道連絡協議会、全国路面電車愛好支援団体協議会とともに、福井鉄道とえちぜん鉄道が共催。福井鉄道は地域公共交通活性化・再生化（通称）のスキームで施設保有と運営を分ける上下分離を計画、えちぜん鉄道はいったん廃止されたレールを地域住民の熱意で復活させるという地方鉄道の維持・再生の典型例のような両鉄道が走る地元だけに、会場では熱のこもった議論が交わされた。（略）

（各社ホームページ）

□東海道本線 豊田町駅エレベーター等使用開始について（JR東海HPより 10/15 付）

お体のご不自由なお客様やご高齢のお客様をはじめ、あらゆるお客様に安全かつ安心してご利用いただけるよう、駅のバリアフリー化を進めております。東海道本線 豊田町駅（静岡県 磐田市 豊田町）において平成19年よりエレベーター等の整備を進めてまいりましたが、工事の完了に伴い、バリアフリー化された駅として、平成20年10月18日（土）始発列車より使用開始といたします。

詳細 → <http://jr-central.co.jp/news/release/nws000194.html> ・ <http://jr-central.co.jp/news/release/pdf/000003271.pdf>

□福山駅福塩線ホームのエレベーター使用開始について（JR西日本HPより 10/2 付）

国、広島県および福山市のご協力を得て、バリアフリー新法（高齢者、障害者などの移動などの円滑化の促進に関する法律）に基づき、整備を行なってきました福山駅在来線ホームについて、福塩線ホームのエレベーター使用開始日が決定しましたのでお知らせいたします。

詳細 → http://www.westjr.co.jp/news/newslst/article/1173864_799.html

□ロマンスカー全20編成への「AED（自動体外式除細動器）」の設置が完了（小田急電鉄HPより10/24付）

小田急電鉄株式会社(本社:東京都新宿区 社長:大須賀 頼彦)では、本年3月に就役したロマンスカー・MSEに、鉄道車両としては国内で初めて「AED(自動体外式除細動器)」を設置して以来、既存のロマンスカーについてもAEDの設置を進めてきましたが、このほど全20編成への設置が完了しました。

詳細→ http://www.odakyu.jp/program/info/data.info/4053_3688288.pdf

□日暮里駅の成田方にてエレベーターが使用開始されます（京成電鉄HPより10/9付）

日暮里駅総合改善事業の進捗に伴い、平成20年10月25日(土)より成田方にてコンコースとホームを結ぶエレベーターが新たに使用開始されます。また、エレベーター付近通路の一部が変更となります。なお、駅中央付近にある階段が1箇所閉鎖となります。

詳細→ <http://www.keisei.co.jp/keisei/kouhou/news/20-062b.pdf>

□11月1日より地上デジタル放送を活用したバスナビゲーションサービスを開始します（西日本鉄道HPより10/3付）

西日本鉄道(株)と(株)テレビ西日本では、地上デジタル放送を活用したバスナビゲーションシステムを共同で開発し、11月1日(土)よりテレビ西日本の地上デジタル8chにてサービスを開始いたします。(略)

詳細→ http://www.nishitetsu.co.jp/release/2008/08_91.pdf

□可動式ホーム柵の設置工事期間と使用開始について（札幌市交通局HPより10/20付）

札幌市営地下鉄東西線では、ホームからの転落や列車との接触事故を防止するため、可動式ホーム柵を新さっぽろ駅から設置し、準備が整った駅から順次使用を開始します。

詳細→ http://www.city.sapporo.jp/st/homusaku/kadoshiki_homusaku_kaishi3.pdf

□バリアフリー対応トイレの設置駅について（大阪市交通局HPより10/14付）

地下鉄及びニュートラムにおけるバリアフリー対応トイレの設置駅を公表。

詳細→ <http://www.kotsu.city.osaka.jp/ct/other000006900/barrier-free-rosenzū.pdf>

(その他)

□明治安田こころの健康財団：指さし会話で意思疎通 県警に支援ボード贈呈／高知（毎日新聞より9/30付）

知的障害者や外国人など、話し言葉でコミュニケーションが取りにくい人たちのバリアフリー活動に貢献しようと、明治安田こころの健康財団(笹野真民理事長)が29日、イラストを指さすことで意思疎通を図れる「コミュニケーション支援ボード」を県警に300部贈った。ボードは警察署と交番用(A3判)、パトカー用(A4判)の2種類。県内のすべての該当機関に配る。「まいごになった」「電話してほしい」などの状況を表すイラストとともに、英語、中国語、韓国語、日本語が表記されている。同財団では03年から駅や学校などに同様の支援ボードを設置。今年度からは「ちかんにあった」「なぐられた」などを追加した警察版の支援ボード約2万4000部を作成し、警視庁や全国の道府県警に順次贈呈している。

□ノンステップバス積極導入 尼崎市交通局を表彰へ（神戸新聞より9/30付）

お年寄りや障害者が乗車しやすいノンステップバスを積極的に導入してきた尼崎市交通局が、国土交通省近畿運輸局の「第1回バリアフリー化推進功労者」に選ばれた。2007年度末の時点で、市営の乗り合いバスへの導入率は、約94%と全国で最も高く、本年度中に全136台をすべてノンステップに更新するという。兵庫県内では唯一の受賞で、30日に大阪市内で表彰式が行われる。(略)

□金曜は「福祉丸」 釜石市観光船・はまゆり（岩手日報より10/2付）

釜石市は10月の毎週金曜日(3、10、17、24、31日)、市の観光船はまゆりの特別企画として、福祉関係者を対象にした割引運航を初めて行う。同観光船はバリアフリー設備が充実し、体の不自由な人にも快適なクルージングを約束。市は多くの乗船を期待する。対象は▽福祉施設に入居している人▽普段車いすで生活している人▽要介護認定(要支援を含む)を受けている人。大人の場合、1500円の通常料金が無料となり、付き添いも2人まで750円と半額になる。乗船できるのは、釜石湾を40分ほどかけて航行する「釜石湾絶景めぐりコース」。釜石大観音、岩場を彩る白いハマギク、壮大な湾口防波堤などを目の当たりにし、ウミネコの餌付けも楽しめる。釜石港の観光船案内所前を午前11時10分に出航、同50分に帰港

する。同観光船は安心して階段を上り下りできる電動ステップリフトのほか、大型タラップ、車いす用トイレなどを備える。船内は段差がほとんどなく、デッキへの移動もスムーズ。安定性のある双胴高速船のため、揺れも少ない。

□観光圏整備法：「ふくしま」「会津・米沢」を国が認定／福島（毎日新聞より 10/17 付）

福島市など4市の「ふくしま観光圏」と、会津若松市など3市2町の「会津・米沢地域観光圏」の整備実施計画が、国土交通省の認定を受けた。観光圏整備法に基づき、国が事業費の最大4割を補助し、広域的な滞在型観光の振興を図る。同一県内での2地域の認定は全国で福島、大分両県だけ。「ふくしま観光圏」は福島、相馬、二本松、伊達の4市で協議会を構成。計画では、首都圏から何度も再訪でき、障害者や高齢者に配慮したバリアフリーの観光先進地とする。「会津・米沢地域観光圏」は会津若松、喜多方市、下郷、南会津町と山形県米沢市の3市2町で協議会を結成。自然、温泉、食、歴史の地域資源を生かし、宿泊施設外でも楽しめる食をPRする。「ふくしま観光圏」の協議会会長を務める瀬戸孝則・福島市長は「4市のエリアは海や山の豊かな自然と温泉資源が大きな特徴。子供からお年寄りまで楽しめるよう取り組みたい」とコメントした。ふくしま観光圏には10日に東北運輸局長から認定書が交付され、会津・米沢地域観光圏には17日に交付される。

□医療用語の自動点字翻訳システム開発 神戸大学（神戸新聞より 10/22 付）

医療現場における視覚障害者のバリアフリーを進めようと、神戸大大学院医学研究科（神戸市中央区）と同大付属病院が医療関連文書の自動点字翻訳システム「eBraille（イーブレイル）」を開発、先月から同病院で運用を始めた。翻訳精度は国内最高レベル。インターネット上にも公開しており、開発者は「総合病院から開業医、薬局まで幅広く活用してほしい」と呼び掛けている。（略）

□バリアフリー施設が一目で「福祉マップ」改訂版配布／福岡（毎日新聞より 10/24 付）

中津市社会福祉協議会（大分県）は、市内全域のバリアフリー施設を載せた「なかつ福祉マップ」の改訂版を5000部出版、郵便局や公民館などに配布した。赤い羽根共同基金の配分金を基にした地域福祉推進事業の一環で、市身体障がい者協議会などが協力した。北部（90カ所）と南部（40カ所）に分け、民間も含め紹介。身障者用駐車場や出入り口スロープ、トイレなどの施設ごとにデザイン化した絵文字で示すなど分かりやすい内容に仕上がっている。福祉関係施設の連絡先や介護対応のできるタクシー会社の電話番号一覧のほか、高齢者や子どもたちの相談窓口も掲載している。同福祉協議会は「『心のバリアフリー』の広がり貢献したい」と話している。問い合わせは同福祉協議会中津支所。

□観光庁 バリアフリー促進 観光地にチェックシート（日経新聞より 10/25 付）

高齢者や障害者が楽しめる観光地づくりに役立ててもらおうと、観光庁は来年度、自治体が取り組むべきことをまとめたチェックシートを作る方針を固めた。「史跡の展示物に点字を付ける」「障害者用トイレの位置が分かる地図を作る」といった項目を列挙。旅行者向けにも同様のチェックシートを作り、高齢者らに優しい観光ツアーの企画も促す。高齢者人口が増えていることなどから観光地のバリアフリー化を求める声は高まっている。ところが観光地の中には車いすでは通れない道があるなどバリアフリーの面では整備が遅れているのが実情。自治体側も経験不足などから何をすればいいのか戸惑うケースが目立つという。

□阪急「電車種別の赤と緑の使用やめます」色覚障害に配慮（朝日新聞より 10/25 付）

阪急電鉄（大阪市）は、特急や準急など電車の種別ごとにカラー表示している駅などの時刻表の数字について、赤と緑色の使用をやめることを決めた。今後、ダイヤ改定に合わせて変更する方針で、遅くとも2010年までには取り換える。同社は特急の出発時刻を赤色、準急を緑色で表示。色覚障害がある人は赤と緑が見分けにくい。色覚障害のある白浜徹朗弁護士（48）＝京都弁護士会＝が今春、「見えにくい表示は移動の自由の不当な制限にあたる」として、京都地方法務局に人権救済を申し立てていた。白浜弁護士と協議した阪急が9月に改善を約束した。申し立てを受け、阪急と阪神、近鉄、南海、京阪の関西私鉄5社は月1回、色覚障害について勉強会を開いており、色覚バリアフリーの表示は今後、他社にも広がりそうだ。白浜弁護士は「関西以外にもこの動きが広がってほしい」と話している。

▼各種催し物のお知らせ

□サイトワールド2008 <http://www.sight-world.com/brief.htm>

日時：11月2日～4日 / 場所：すみだ産業会館 サンライズホール

主催：社会福祉法人日本盲人委員会

内容：国内、海外の視覚障害者用最先端機器、日常生活用品などを多数展示 等

□しずおかユニバーサルデザイン国際シンポジウム「暮らしのリ・デザイン」～ 豊かで、快適な明日を考える ～

静岡県では、平成11年にユニバーサルデザイン(UD)に取り組み始めてから、今年で10年という節目の年を迎えるにあたり、静岡文化芸術大学と共催で「しずおかユニバーサルデザイン国際シンポジウム」を開催いたします。テーマは『暮らしのリ・デザイン』。製造品出荷額全国3位のものづくり県、静岡から「まち・モノ・家づくり」に携わる企業の技術者や研究者によるパネルトークをはじめ、UDの提唱者であるロン・メイス氏と長年活動を共にしてきた米国メイスユニバーサルデザイン研究所部長レスリー・ヤング氏の記念講演などを行います。少子高齢化が急速に進展する中、豊かで、快適な明日のために、私たちはどのように「暮らしをリ・デザイン」していくべきか、各分野の第一線で活躍する専門家の方々と共に考えます。皆様のご参加をお待ちしています。

■開催日:平成20年11月13日(木)～14日(金)

■会場:静岡文化芸術大学(浜松市)

■参加料:無料(要申し込み)

■プログラム

●11月13日(木)

10:30～ 開会

10:40～11:40 基調講演「誰のためのデザインか」・大宅映子氏(評論家)

11:45～12:25 事例発表「視認性、可読性に優れたデジタルフォントの開発」
・竹塚直久氏(株式会社リムコーポレーション代表取締役)

13:10～14:50 パネルトーク「暮らしを快適にするデザイン・カ」
コーディネーター・古瀬 敏氏(静岡文化芸術大学教授)

パネリスト・吉村 等氏(スズキ株式会社)

・田中真二氏(積水ハウス株式会社)

・奥田直磯氏(富山ライトレール株式会社)

15:00～17:00 記念講演「ユニバーサルデザインの到達点と今後」

・レスリー・ヤング氏(メイスユニバーサルデザイン研究所)

UD対談・レスリー・ヤング氏と河原林桂一郎氏(静岡文化芸術大学デザイン学部長)の対談

18:00～ 交流会(会費5,000円)

●11月14日(金)

9:00～11:00 分科会[Aコース](定員50人・先着)

「ユニバーサルデザインとモノづくり」ヤマハ株式会社、ヤマハリビングテック株式会社の取組

分科会[Bコース](定員50人・先着)

「静岡県のユニバーサルデザイン施策の概要」、「静岡文化芸術大学・学内施設の視察」

11:00～15:00 視察調査(定員50人・先着)

・静岡県小笠山総合運動公園・エコパ、ヤマハ発動機株式会社・本社工場

●詳細はホームページをご覧ください。 <http://www.pref.shizuoka.jp/ud/udsymposium>

■申込方法 ホームページからお申し込みいただけます。 <http://www.pref.shizuoka.jp/ud/udsymposium>

□P.P.C.2008 第10回 西日本国際福祉機器展 <http://convention-a.jp/fukushi/>

日時:11月28日～30日 / 場所:西日本総合展示場・新館(北九州小倉北区浅野3-8-1)

主催:西日本国際福祉機器展実行委員会/財団法人西日本産業貿易コンベンション協会

内容:九州経済産業局、福岡県、北九州市など行政機関や関係団体で実行委員会を組織し、地域の福祉施策とも連動したパブリックな展示会 等

▼コラム

9月29日に、NHKの朝の連続ドラマ「だんだん」がスタートしました。生後まもなく松江と京都に別れ別れになって育った双子が、18年後に出雲大社で偶然出くわすところから物語が始まります。二人とも自分に双子の姉妹がいることを知らずに、一人は松江の歌が好きな高校生として、もう一人は京都の舞妓として暮らしていたので、偶然出会っただけでは、単によく似た人だと思わなかったでしょう。そこに出くわした音楽事務所の青年との何気ない会話の中で偶然にも誕生日が同じであることが分かったことから、自分たちは双子ではないかという思いがふくらんできて物語は進行していきます。偶然の出会いという細い縁の糸が繋がって、新しい世界が広がっていきます。旧暦10月は「神無月」と言われますが、出雲地方では「神在月」と言います。日本中の神様が縁結びのために出雲大社に集まることから、そのように言われているとのこと。このメルマガも、読者の皆さんに良い縁をお届け

けできるとうれしく思います。

▼その他

記事募集中！！

本メールマガジンへの掲載記事を募集中です。バリアフリーに関連する取組みや話題、催し物の案内等を事務局までお寄せください。

----- 【INFORMATION】 -----

○記事募集中！！ : info@ecomoo.or.jp

○配信先変更・停止、ご意見・ご感想 : info@ecomoo.or.jp

○交通バリアフリー推進ネットワークマガジンはバリアフリー推進ネットワークの著作物です。転送・転機する場合は、必ず事前にご連絡ください。 : info@ecomoo.or.jp



バリアフリー推進ネットワーク事務局(交通エコロジー・モビリティ財団)

E-mail: : info@ecomoo.or.jp

URL : http://www.ecomoo.or.jp/barrierfree/mailmagazine/mailmagazine_top.html

